

入 試 要 項

桐朋学園大学音楽学部

ディプロマ・コース

2016



ソリスト・ディプロマ・コース
カレッジ・ディプロマ・コース

目 次

	ページ
ディプロマ・コースについて	2
ソリスト・ディプロマ・コース募集要項	4
ソリスト・ディプロマ・コース入学試験課題	6
カレッジ・ディプロマ・コース募集要項	8
カレッジ・ディプロマ・コース入学試験課題	10
出願書類等	18
出願書類記入上の諸注意	19
カレッジ・ディプロマ・コース履修科目等	21
在籍者の履修継続（再登録）手続について	24
特待生制度・奨学金制度および学生会館	25
交通機関案内図	26

同封の書類等

新規受験者用

- ・ディプロマ・コース志願票 ①
- ・㊦ 納金票
- ・伴奏譜提出票
- ・出願書類送付用封筒
- ・受験証（出願証）送付用封筒
- ・奨学金申請書
- ・桐朋学園音楽部門学生会館入居願

継続手続者用

- ・ディプロマ・コース志願票 ② 履修継続（再登録）用
- ・㊦ 納金票
- ・出願書類送付用封筒

ディプロマ・コースについて

桐朋学園大学音楽学部の附属コースには、大学設置基準第31条に定められる「科目等履修生」の一種として、以下のコースがあります。

コース名 (受験資格)	募集専攻	コースの特色
ソリスト・ディプロマ (中学校卒業以上)	ピアノ ヴァイオリン チェロ フルート	ソリストとして将来性を有すると認められた者を対象に高度な実技教育を行うことを目的としたコース。
カレッジ・ディプロマ (高等学校卒業以上)	大学に設置されている全専攻 (フルートを除く)	実技を中心とした教育を受ける場として、様々な学生を受け入れることを前提として設置されたコース。18歳～50歳以上まで幅広い年齢の学生が在籍しています。
研究生 (大学音楽学部卒業以上)	大学に設置されている全専攻	大学卒業後、引き続き専攻実技の研究を深めたい者のためのコース。 (ピアノ専攻－他大学卒業生は募集しません)
科目等履修生 (高等学校卒業以上)	専攻実技の 受講は不可	大学で開講されている授業科目の単位修得を目的として設置されたコース。1科目から受講可能。

本学は「ソリスト」「カレッジ」の2つのディプロマ・コースを設置しています。ディプロマ・コースは、規定の年限在籍し、科目を修得した場合は、「コース修了証」が授与されます。これは、本学独自の修了認定で、大学を卒業した時に与えられる「学位(学士)」とは異なります。

ソリスト・ディプロマ・コース (SD)

ソリストとしての将来性を有すると認められた者を対象に高度な実技教育を行うことを目的としているコースで1973年に開設されました。

近年の在籍者数は以下のとおりです。

	2015年度	2014年度	2013年度
ピアノ専攻	2	3	2
ヴァイオリン専攻	8	9	8
チェロ専攻	4	4	2
フルート専攻	0	0	0

このコースの必修科目は、専攻実技のほか、音楽理論・音楽史・ソルフェージュの3科目です。在籍している学生の中には、普通科の高校に通いながらの「ダブル・スクール」を実践している学生もいますし、演奏活動と両立させている学生もいます。

このコースを修了するためには通算3年以上在籍し、必修科目の単位を修得、修了試験に合格する必要があります。また、入学試験または所定の学内試験における専攻実技の成績が極めて優秀であると認められた者には「登録料」や「受講料」等の全額または一部免除される「特待生制度」もあります。

過去3年のソリスト・ディプロマ・コース入試結果

	2015年度		2014年度		2013年度	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
ピアノ専攻	2	1	2	1	2	1
ヴァイオリン専攻	2	2	2	2	2	2
チェロ専攻	1	1	2	2	2	2
フルート専攻	0	0	0	0	1	0

カレッジ・ディプロマ・コース（CD）

1996年に開設されたコースです。実技を中心に教育を行うことを目的とし、大学進学に代わる場として、海外留学のための準備の場として、大学卒業後の更なる研鑽の場として、あるいは他大学に学びながら専門教育を受ける場としてなど、様々な志向に応えるべく設置されました。

近年の在籍者数は以下のとおりです。

	2015年度	2014年度	2013年度
ピアノ	16	16	19
弦楽器	6	9	10
管楽器	3	3	7
打楽器	0	0	0
ハープ	1	1	0
古楽器	2	2	2
声楽	5	6	6
作曲	2	1	2
指揮	0	0	1
音楽学	0	0	0

このコースの「修了証」を取得するためには、通算3年以上在籍する必要があります。「年次修了」の通知を2回取得した者に、コース修了試験の受験資格が与えられます。「年次修了」するためには、専攻実技のほか、大学で開講されている「専門科目」を3科目以上履修することが必要です。在籍している学生は年齢層も幅広く、それぞれの目的に合わせて学んでいます。

過去3年のカレッジ・ディプロマ・コース入試結果

	2015年度		2014年度		2013年度	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
ピアノ	8	5	11	8	13	12
弦楽器	7	3	7	4	6	3
管楽器	2	1	1	1	4	4
打楽器	1	0	0	0	0	0
ハープ	0	0	1	1	0	0
古楽器	1	1	1	1	1	1
声楽	1	1	1	1	2	2
作曲	1	1	1	1	1	1
指揮	0	0	0	0	1	1
音楽学	0	0	0	0	0	0

- * 桐朋学園大学音楽学部、桐朋女子高等学校音楽科との同時在籍はできません。ただし、桐朋学園大学音楽学部研究生との同時在籍は可能です。
- * ディプロマ・コース生は、「科目等履修生」にあたるため、学割証や通学証明書は交付されません。
- * ディプロマ・コースについて不明な点がございましたら、本学事務局教務課入試係までお問い合わせください。

ソリスト・ディプロマ・コース（SD）募集要項

募集専攻：ピアノ専攻、ヴァイオリン専攻、チェロ専攻、フルート専攻

募集人員：各専攻 若干名

受験資格：中学校卒業以上の者（2016年3月中学校卒業見込みの者を含む）

選考試験科目：専攻実技のみ（試験課題は6ページ、7ページ参照）

出願手続：1) 入学検定料 **55,000円**
 2) 受付期間 **2015年11月20日(金)～11月27日(金)**
【郵送に限る。11月27日必着】
 3) 出願方法 事前に入学検定料を納入のうえ、上記期間中に後掲の出願書類を提出する。（出願書類等の詳細は18～20ページ参照）

試験日程

伴奏合わせ	12月16日(水)	伴奏合わせ・試験当日の集合時間については、12月11日(金)までに本人宛に通知する。通知が届かない場合は、事務局教務課入試係へ問い合わせること。
試験	ピアノ専攻 12月19日(土) (午後の予定) ピアノ専攻以外 12月17日(木) (午後の予定) ※ いずれも「仙川キャンパス」で実施します。	
問い合わせ先	事務局教務課入試係	電話：03-3307-4122 9:00～16:00

注1) 伴奏者は、本学で準備する。伴奏譜を志願票とともに必ず提出する。コピー譜の場合は、伴奏者が演奏しやすいようにテープで貼るなどの配慮のうえ、提出すること。

注2) 出願後に受験を取りやめる場合は、事前に必ず本学へ電話連絡すること。

合格発表：日時…………… **12月21日(月) 11時予定**

方法…………… 合格者の受付番号を学内（仙川キャンパス）掲示発表および本学ホームページに掲載する。また、志願票に記載された宛先に入学書類を郵送する。

入学手続：1) 手続期間…………… **2016年1月14日(木)～25日(月)** [郵送必着]

2) 校納金（2016年度）

登録料		450,000円*
受講料	前期	450,000円*
	後期	450,000円
施設設備費	前期	50,000円*
	後期	50,000円
別納受講料	選択副科（声楽以外）	80,000円（希望者のみ。年額）
	選択副科（声楽）	55,000円（希望者のみ。年額）
	室内楽・二重奏ソナタ	45,000円（希望者のみ。年額）

注1) *印のついた校納金〔950,000円〕を入学手続時に納める。

注2) 経済情勢の変動等に応じて2017年度以降の校納金については改定があり得る。

3) 提出書類等

- ①「入学手続納付金払込用紙」の副票
- ②誓約書 (本学指定用紙)
- ③身元保証書 (本学指定用紙)
- ④学籍台帳 (本学指定用紙)
- ⑤写真 (タテ4 cm×ヨコ3 cm) 2枚
- ⑥住民票(本人のみ記載のもの)または住民票記載事項証明書 他
※詳細は入学手続書類の発送時に「合格者心得」で通知する。

在籍年限：通算7年まで。

在籍登録は1年ごととし、履修継続(再登録)希望者は毎年度所定の手続きをしなければならない。

履修科目等：必修科目 ・専攻実技

- ・ソルフェージュ [BCクラス修了まで]*
- ・音楽理論(和声実習)[3年間]*
- ・音楽史 [2科目以上合計8単位]

[*桐朋女子高等学校音楽科の卒業生は一部免除される]

- 選択科目
- ・オーケストラ、合奏(アンサンブル)(弦楽器・管楽器の各専攻)
 - ・大学で開講されている科目(当該科目の担当教員が認めた場合)
 - ・選択副科 (受講料別納)
 - ・室内楽・二重奏ソナタ (受講料別納)

その他 大学の各種オーディションを受けることができる。

修了：通算3年以上在籍し、修了試験(リサイタル/公開)に合格した場合に修了とする。不合格の場合は、在籍年限の範囲内で、次年度以降に再度登録のうで受験できる。修了試験受験資格および修了試験については、以下のとおり定める。

<ピアノ専攻>

次の2種類の5回の試験で所定の成績を修めると修了試験の受験資格を得る。

- ・リサイタル試験(60分程度/公開)を3回。うち1回は曲目の半分をトリオ以上の室内楽とする。
- ・コンチェルト試験(公開)を2回。

※上記試験は、年間4～5回設定される試験日を任意に選択して受験できる。

修了試験：リサイタル試験(60分程度/公開)

<ヴァイオリン専攻・チェロ専攻・フルート専攻>

- ・年次試験で所定の成績を2回連続して修めると修了試験の受験資格を得る。

修了試験：リサイタル試験(60分程度/公開)

ソリスト・ディプロマ・コース 入学試験課題

ピアノ専攻

暗譜で演奏する

以下の6曲を合わせ、60分以上のプログラムを用意する。

試験日前日に演奏箇所を指定する。

- 1), 2) 以下の作曲家のエチュードの中から任意の2曲、1曲はChopinのエチュードを含む。
Chopin, Liszt, Debussy, Rachmaninoff, Scriabin, Bartók, Prokofiev, Ligeti
- 3) Bach : Das Wohltemperierte Klavier I・IIから任意の1曲（プレリュードとフーガ）
- 4) Beethoven : Sonateの中から任意の1曲（全楽章）
- 5) ロマン派の作品の中から任意の1曲
- 6) 近代・現代の作品の中から任意の1曲

ヴァイオリン専攻

暗譜で演奏する

- 1) 以下のコンチェルトの中から任意の1曲の、第1楽章または終楽章

Bartók	: 第2番
Brahms	: D-dur
Bruch	: 第1番 g-moll
Dvořák	: a-moll
Elgar	: h-moll
Ernst	: fis-moll op. 23 (独奏部分から第237小節まで)
Glazunov	: a-moll (第1部:アレグロの前まで、第2部:アレグロから)
Lalo	: スペイン交響曲
Mendelssohn	: e-moll
Paganini	: 第1番 D-dur
Prokofiev	: 第1番 D-dur
Prokofiev	: 第2番 g-moll
Saint-Saëns	: 第3番 h-moll
Sibelius	: d-moll
Tchaikovsky	: D-dur
Vieuxtemps	: 第5番 a-moll
Wieniawski	: 第1番 fis-moll
Wieniawski	: 第2番 d-moll

- 2) Paganini : カプリスの中から任意の1曲
- 3) Bach : 無伴奏ソナタの中から任意の1曲の第1, 2楽章

チェロ専攻

暗譜で演奏する

1) 以下のコンチェルト等の中から任意の1曲（第1楽章または終楽章）

L. Boccherini	: B-dur
A. Dvořák	: h-moll
E. Elgar	: e-moll
J. Haydn	: 第1番 C-dur
J. Haydn	: 第2番 D-dur
A. Khachaturian	: e-moll
E. Lalo	: d-moll
S. Prokofiev	: 第2番 e-moll op.125 Sinfonia Concertante
C. Saint-Saëns	: 第1番 a-moll op.33
R. Schumann	: a-moll
D. Shostakovich	: 第1番 Es-dur op.107
P. Tchaikovsky	: Rococo-Variations (主題・第7変奏を含めて10分程度にまとめること)
S. Barbar	: op.22
D. Kabalewski	: op.49
S. Prokofiev	: op.132 Concertino
W. Walton	

2) Bach : 無伴奏組曲の中から任意のプレリュード1曲

フルート専攻

暗譜で演奏する

任意の協奏曲1曲、またはそれに準ずる曲

カレッジ・ディプロマ・コース（CD）募集要項

募集専攻：ピアノ 専攻

弦楽器 専攻 [ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス]

管楽器 専攻 [オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、
トランペット、テノール・トロンボーン、バス・トロンボーン、
ユーフォニウム、テューバ、ホルン]
※本年度はフルートを募集しない。

打楽器 専攻 [マリンバ、パーカッション]

ハープ 専攻

古楽器 専攻 [リコーダー、フラウト・トラヴェルソ、バロック・オーボエ、バロック・ヴァイオリン、バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロ]

声 楽 専攻

作 曲 専攻

指 揮 専攻

音楽学 専攻

募集人員：各専攻 若干名

受験資格：高等学校卒業以上の者（2016年3月高等学校卒業見込みの者を含む）、および同等以上の学力を有すると本学が認めた者。

選考試験科目：専攻実技のみ（試験課題は10～16ページ参照）

ただし、次に該当する者で専攻実技の変更がない場合に限り実技試験は免除される。

- 桐朋女子高等学校音楽科、または桐朋学園大学音楽学部を卒業見込みの者。
- 上記を卒業後1年以内の者。
- 桐朋学園大学音楽学部を中途退学（ただし、学則第43条による退学を除く）して1年以内の者。

出願手続：1) 入学検定料 55,000円

2) 受付期間 2016年2月17日(水)～2月23日(火)

【郵送に限る。2月23日必着】

事前に入学検定料を納入のうえ、上記期間中に後掲の出願書類を提出する。（出願書類等は18～20ページ参照）

試験日程

伴奏合わせ	3月3日(木)	伴奏合わせ・試験当日の集合時間については、3月1日(火)までに本人宛に通知する。通知が届かない場合は、事務局教務課入試係へ問い合わせること。
試 験	3月4日(金)	試験実施会場（仙川または調布）は受験証返送時に連絡します。
問い合わせ先	事務局教務課入試係 電話：03-3307-4122 9:00～16:00	

注1) 伴奏者は、本学で準備する。伴奏譜を志願票とともに必ず提出する。コピー譜の場合は、伴奏者が演奏しやすいようにテープで貼るなどの配慮のうえ、提出する。

注2) 出願後に受験を取りやめる場合は、事前に必ず本学へ電話連絡すること。

合格発表： 日時 … 3月7日(月) 17時予定

方法 … 合格者の受付番号を学内(仙川キャンパス) 掲示発表および本学ホームページに掲載する。また、志願票に記載された宛先に入学手続書類を郵送する。

入学手続： 1) 手続期間…2016年3月8日(火)～14日(月) [郵送必着]

2) 校納金(2016年度)

登録料		200,000円*
受講料	前期	450,000円*
	後期	450,000円
施設設備費	前期	50,000円*
	後期	50,000円
別納受講料	選択副科(声楽以外)	80,000円〈希望者のみ。年額〉
	選択副科(声楽)	55,000円〈希望者のみ。年額〉
	室内楽・二重奏ソナタ	45,000円〈希望者のみ。年額〉
	作曲理論ピアノ	160,000円〈希望者のみ。年額〉

注1) *印のついた校納金〔700,000円〕を入学手続時に納める。

注2) 経済情勢の変動等に応じて2017年度以降の校納金については改定があり得る。

3) 提出書類等

- ①「入学手続納付金払込用紙」の副票
 - ②誓約書 (本学指定用紙)
 - ③身元保証書 (本学指定用紙)
 - ④学籍台帳 (本学指定用紙)
 - ⑤写真 (タテ4cm×ヨコ3cm) 2枚
 - ⑥住民票(本人のみ記載のもの) または住民票記載事項証明書 他
- ※詳細は入学手続書類の発送時に「合格者心得」で通知する。

在籍年限： 通算5年まで。

在籍登録は1年ごととし、履修継続(再登録) 希望者は毎年度所定の手続きをしなければならない。

履修科目等： 桐朋学園大学音楽学部で開講されている科目を受講する。

後掲(21～23ページ参照)

年次修了： 専攻実技の年次試験で所定の成績を修め、指定された履修科目(大学生向けに開講されている「専門科目」を3科目以上)の単位を修得した者に対し、年次修了を認め、成績配布時にその旨を通知する。年次修了の通知を2回取得した者には、コース修了試験の受験資格が与えられる。

コース修了： コース修了試験の受験資格を得た者は、コース修了試験を受験することができる。なお、年次修了の通知を1回取得し、指定された履修科目の単位を修得し、実技成績が優秀な者は、翌年度に年次試験を受験することなくコース修了試験を受験できることもある。この場合は、事務局教務課へ「修了試験特別受験申請書」を提出し、受験可否を確認すること。

コース修了試験に不合格の場合は、在籍年限の範囲内で、次年度に再度登録手続のうえ受験できる。在籍年限内にコース修了試験に合格しない場合は退籍となる。

カレッジ・ディプロマ・コース 入学試験課題

ピアノ専攻

暗譜で演奏する

- 1) Bach : Das Wohltemperierte Klavier I・II から任意の 1 曲 (プレリュードとフーガ)
- 2) Chopin : Etudes op.10 または op.25 の中から任意の 1 曲
(ただし、op.10-6、op.25-7は除く)
- 3) 自由曲 (10分程度)
※当日、演奏をカットすることもある。

弦楽器専攻

暗譜で演奏する

a) ヴァイオリン

- 1) Paganini : カプリスの中から任意の 1 曲
- 2) 以下のコンチェルトから任意の 1 曲の、第 1 楽章または終楽章
 - Bartók : 第 2 番
 - Brahms : D-dur
 - Bruch : 第 1 番 g-moll
 - Dvořák : a-moll
 - Elgar : h-moll
 - Ernst : fis-moll op.23 (独奏部分から第237小節まで)
 - Glazunov : a-moll (第1部:アレグロの前まで、第2部:アレグロから)
 - Lalo : スペイン交響曲
 - Mendelssohn : e-moll
 - Paganini : 第 1 番 D-dur
 - Prokofiev : 第 1 番 D-dur
 - Prokofiev : 第 2 番 g-moll
 - Saint-Saëns : 第 3 番 h-moll
 - Sibelius : d-moll
 - Tchaikovsky : D-dur
 - Vieuxtemps : 第 5 番 a-moll (アダージョの前まで)
 - Wieniawski : 第 1 番 fis-moll
 - Wieniawski : 第 2 番 d-moll

b) ヴィオラ

- 1) Bach : Cello Suiteの中から任意の楽章 (繰り返しなし)
- 2) 以下の 5 曲の中から任意の 1 曲
 1. Hoffmeister in D から第 1 楽章 (カデンツァ付)
 2. Stamitz in D op.1 から第 1 楽章 (カデンツァ付)
 3. Bartók
 4. Hindemith : Der Schwanendreher (白鳥を焼く男)
 5. Walton※ 3～5 は第 1 楽章、または最終楽章

c) チェロ

- 1) Bach : 無伴奏組曲 6 曲の中から任意の 1 曲の、プレリュード
- 2) 以下のコンチェルトから任意の 1 曲の、第 1 楽章または終楽章
 - L. Boccherini : B-dur
 - A. Dvořák : h-moll
 - E. Elgar : e-moll
 - J. Haydn : 第 1 番 C-dur
 - J. Haydn : 第 2 番 D-dur
 - A. Khachaturian : e-moll
 - E. Lalo : d-moll
 - S. Prokofiev : 第 2 番 e-moll op.125 Sinfonia Concertante
 - C. Saint-Saëns : 第 1 番 a-moll
 - R. Schumann : a-moll
 - D. Shostakovich : 第 1 番 Es-dur
 - P. Tchaikovsky : Rococo-Variations (主題・最終変奏曲を含め10分程度にまとめること)
 - S. Barbar : op. 22
 - D. Kabalewski : op. 49
 - S. Prokofiev : op. 132 Concertino
 - W. Walton

d) コントラバス

次の 1) または 2) の中から 1 曲選んで演奏すること。

- 1) 任意のコンチェルトの第 1 楽章または第 3 楽章
- 2) バロックのソナタ(急速楽章と緩徐楽章)

管楽器専攻

以下の 1) と 2) を演奏する。暗譜で演奏するか否かは自由とする。繰り返しは省略する。

a) フルート 本年度は募集しない。

b) オーボエ

- 1) W. Ferling : 48 ETUDES (Pierre Pierlot社版)
No. 5, 14, 24, 27 から当日指定する。

2) 以下の 4 曲から任意の 1 曲

- G. F. Händel : Sonate c-moll 第 1, 2 楽章
- G. F. Händel : Sonate g-moll 第 1, 2 楽章
- G. Ph. Telemann : Sonate g-moll 第 1, 2 楽章
- G. Ph. Telemann : Sonate a-moll 第 1, 2 楽章

c) クラリネット

- 1) C. Rose : 32 Etudes (Leduc社版)
No. 1~20の中から任意の奇数番号と偶数番号をそれぞれ1曲(合計2曲)を選択する。

2) 以下の 6 曲から任意の 1 曲

- C. Stamitz : Concerto No.3 B-dur 第 1 楽章
- C. M. v. Weber : Concerto op.73 f-moll 第 1 楽章
- C. M. v. Weber : Concertino op. 26
- A. Messenger : Solo de Concours
- E. Bozza : Fantaisie Italienne
- Krommer : Concerto op. 36 Es-dur 第 1 楽章

d) **ファゴット**

- 1) Julius Weissenborn : Fifty Bassoon Studies op.8 Vol. II
No. 1 ~ No.15 から当日指定する。
- 2) 以下の2曲から任意の1曲
G.P. Telemann : Sonata f-moll 第1, 2楽章
J.F. Fasch : Sonata C-dur 第1, 2楽章

e) **サクソフォン**

- 1) Ferling : Quarante-Huit Études (Leduc社版)
より任意の奇数番号と偶数番号をそれぞれ1曲ずつ演奏する。
- 2) 自由曲 1曲

f) **トランペット**

- 1) R. W. Getchell : Practical Studies Vol. II Getchell & Hovey (Belwin Mills社版)
No. 79, 85, 90, 96, 100 から当日指定する。
- 2) 以下の5曲から任意の1曲
G. Alary : Morceau de Concours (A. Leduc社版)
J. Ed. Barat : Fantaisie en mi-bémol (A. Leduc社版)
Ph. Gaubert : Cantabile et Scherzetto (A. Leduc社版)
J. Guy Ropartz : Andante and Allegro (International Music社版)
F. Thomé : Fantaisie (A. Leduc社版)

g) **テノール・トロンボーン**

- 1) C. Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (版は指定しない)
No. 9, 13, 20, 22, 27 から当日指定する。
- 2) 以下の5曲から任意の1曲
G. Ph. Telemann : Sonate f-moll 第3, 4楽章 (International Music社版)
B. Marcello : Sonate F-dur 第1, 4楽章 (International Music社版)
S. Rousseau : Piece Concertante (Carl Fischer社版)
E. Sachse : Concertino 最初から Adagio の終わりまで
(International Music社版)
A. Guilmant : Concert Piece op.88 (International Music社版)

h) **バス・トロンボーン**

- 1) O. Blume : 36 Studies for Trombone with F Attachment (Carl Fischer社版)
No. 6, 8, 14, 19, 23 から当日指定する。
- 2) 以下の4曲から任意の1曲
A. Lebedev : Concerto in One Movement (Musicus社版)
E. Sachse : Concertino 最初から Adagioの終わりまで
(F-durで演奏してもよい) (International Music社版)
E. Bozza : Thème Varié (A. Leduc社版)
E. Bozza : Allegro et Finale (A. Leduc社版)

i) ユーフォニウム

- 1) C. Kopprasch : Kopprasch Selected Etude Vol. I (版は指定しない)
No. 6, 10, 11, 16, 26 から当日指定する。
- 2) 以下の4曲から任意の1曲
- | | | |
|-----------|---|-----------|
| Barat | : Andante & Allegro | (版は指定しない) |
| Capuzzi | : Andante & Rondo | (版は指定しない) |
| Vivaldi | : Sonata No. 1 B ^b major より 第1、2楽章 | (版は指定しない) |
| De La Nux | : Concert Piece | (版は指定しない) |

j) テューバ

- 1) C. Kopprasch : 60 Selected Etude for Tuba (Robert King社版)
No. 8, 14, 15, 19, 41, 43 から当日指定する。
- 2) 以下の5曲から任意の1曲
- | | | |
|--------------------|--|------------------|
| J. S. Bach=W. Bell | : Air and Bourree | (Carl Fischer社版) |
| W. S. Hartley | : Suite for Unaccompanied Tuba 1 Intrada | (Elkan-Vogel社版) |
| W. S. Hartley | : Suite for Unaccompanied Tuba 2 Valse | (Elkan-Vogel社版) |
| W. S. Hartley | : Suite for Unaccompanied Tuba 3 Air | (Elkan-Vogel社版) |
| W. S. Hartley | : Suite for Unaccompanied Tuba 4 Galop | (Elkan-Vogel社版) |

k) ホルン

- 1) Maxime-Alphonse : Vol. I No. 9, 24, 34, 36, 40から当日指定する。(Leduc社版)
- 2) 以下の3曲から任意の1曲
- | | | |
|--------------|-------------------------------------|-----------------|
| W. A. Mozart | : Horn Konzert 第3番 第1楽章
カデンツァなし。 | (Bärenreiter社版) |
| W. A. Mozart | : Horn Konzert 第1番 第1楽章 | (Bärenreiter社版) |
| E. Bozza | : En Irlande | (Leduc社版) |

打楽器専攻

(本学の楽器を使用)

以下の(1)(2)(3)を演奏する。暗譜で演奏するか否かは自由とする。

a) パーカッション

- (1) 小太鼓による1つ打ち、2つ打ち、5つ打ちから当日指定する。(Snare offで演奏)
(2) 以下から当日2曲を指定する。(Snare onで演奏)

M. Goldenberg: Modern School for Snare Drum (A. J. Cirone 社版)から
Roll Exercise in 2/4(p.44) Roll Exercise in 3/4(p.45)
Etude in 6/8(p.48, 49)

- (3) マリンバによる課題—17ページ参照

マリンバによる $\sharp \cdot \flat$ 2つまでの3オクターブのスケールとアルペジオ。
短調は和声的音階・旋律的音階の両方とする。
注: 調性は当日指定する。

b) マリンバ

- (1) 小太鼓による1つ打ち、2つ打ち (Snare offで演奏)
(2) マリンバによる課題—17ページ参照

マリンバによる $\sharp \cdot \flat$ 4つまでの3オクターブのスケールとアルペジオ。
短調は和声的音階・旋律的音階の両方とする。
注: 調性は当日指定する。

- (3) 自由曲 8分以内

ハーブ専攻

暗譜で演奏する
自由曲 1 曲

古楽器専攻

暗譜で演奏するか否かは自由とする

注1) リコーダー、フラウト・トラヴェルソ、バロック・オーボエ、ヴィオラ・ダ・ガンバの受験生は当日 $a^{\flat} = 415$ または $a^{\flat} = 440$ のピッチの専攻楽器を使用すること。
バロック・ヴァイオリンおよびバロック・チェロの受験にあたっては、モダン楽器での受験も可とする。ただし、ピッチは $a^{\flat} = 415$ とし、ガット弦およびバロック弓を使用すること。
注2) 伴奏は本学で用意する。

a) リコーダー

1) 課題曲

G. F. Händel または G. Ph. Telemann : リコーダーのためのソロソナタから任意の 1 曲

2) 初見演奏

5 分間の予見時間を与える。試奏はできない。

b) フラウト・トラヴェルソ

1) 課題曲

G. F. Händel : Sonata h-moll (Hallenser Sonata No. 3, HWV376) 全楽章 繰り返しは任意。

[推薦楽譜] Bärenreiter社版 (1995年, T. Best の新版)

2) 初見演奏

5 分間の予見時間を与える。試奏はできない。

c) バロック・オーボエ

1) 課題曲

G. F. Händel : ソナタ B-dur HWV357 全楽章

2) 初見演奏

5 分間の予見時間を与える。試奏はできない。

d) ヴィオラ・ダ・ガンバ

自由曲 (10分程度)

e) バロック・ヴァイオリン

1) 課題曲

① 以下の a、b のいずれか一曲

a. 17 世紀イタリアのソナタから任意の 1 曲
(Marini, Castello, Fontana, Uccellini などから)

b. 任意の Diminution, Division から 1 曲
(Bassano, Rognoni, Gabrielli あるいは Division Violin より)

② A. Corelli : ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 作品 5 No. 1~6, No. 12 から 任意の 1 曲

(No. 1~6 を弾く場合は装飾付き。装飾は印刷のものでも自作でもよい)

③ J. S. Bach : ヴァイオリンとオブリガート・チェンバロのためのソナタ No. 1~6 から任意の 1 曲 全楽章 (当日審査員が演奏する楽章を指定する)

2) 初見演奏

5分間の予見時間を与える。試奏はできない。

f) バロック・チェロ

1) 課題曲

- ① J. B. Barrière : Sonate 1 (Livre 1) 1st mov. Adagio, 2nd mov. Allegro,
3rd mov. Adagio-Andante-Adagio, 4th mov. Allegro
② J. S. Bach : Gavottes I and II Suite V BWV1011 in c-moll

2) 初見演奏

5分間の予見時間を与える。試奏はできない。

g) チェンバロ

1) 課題曲 —— 次の作品をすべて演奏する。ただし、演奏順序は自由。

- ① J. S. Bach : 平均律クラヴィーア曲集 第 I 巻
前奏曲とフーガ 第 1 巻 第 18 番 gis-moll
[推薦楽譜] Bärenreiter社版 および Henle社版
② D. Scarlatti : Sonata C-dur K. 420
[推薦楽譜] スカルラッティ 60のソナタ 下巻 全音楽譜出版社版
③ J. P. Rameau : クラヴサン曲集より「Les Tendres Plaintes」
[推薦楽譜] Bärenreiter社版 および Heugel社版
④ G. Frescobaldi : Balletto II
[推薦楽譜] Suvini Zerboni社版

2) 初見演奏

バロック時代の簡易な舞曲あるいはそれに準ずる小品。

5分間の予見時間を与える。試奏はできない。

※当日は後期フレミッシュ・モデル 2 段鍵盤チェンバロ (音域 FF-g^{'''}、ピッチ a[']=415、
レジスタ 8' 8" 4' L) を使用する。

声楽専攻

暗譜で演奏する

イタリア古典歌曲を含む 5 曲を提出し、それらの中から任意の 1 曲と、抽選による 1 曲の合計 2 曲を演奏する。

出願の際、受験曲目票に原語で作曲者名と曲名を記入する。オペラ・アリア以外は調性も明記する。

※出願書類とともに受験曲 5 曲の伴奏譜を必ず提出する。「任意の 1 曲」には伴奏譜提出票に「任意曲」と明記し、受験曲目票の 1) 欄に曲目を記入すること。

作曲専攻

1) 作曲作品提出(複数でもよい)・・・出願の際、出願書類とともに提出すること。

2) 専攻に関する面接

指揮専攻

1) 実技

暗譜で演奏するか否かは自由とする

Beethoven : Symphony No. 1 第1楽章

注) 本学で用意した2台ピアノによる。

2) 面接

3) 作曲理論ピアノまたは楽器等演奏

ア) 作曲理論ピアノ(①・②は暗譜で演奏する)

① J.S.Bach : Das Wohltemperierte Klavier I・IIから任意の1曲

(プレリュードとフーガ)

② 自由曲1曲

以上①, ②合わせて15分以内の楽曲とする。

③ 新曲初見演奏1曲(予見時間5分)

イ) 作曲理論ピアノによらない楽器等演奏

弦楽器・声楽は暗譜。これ以外の楽器は、暗譜で演奏するか否かは自由とする。

自由曲1曲

4) 和声(旋律課題 ピアノ使用不可・3時間)

5) 新曲視唱・聴音

音楽学専攻

1) 専攻作文 (1時間30分)

2) 専攻外国語(1時間30分) - 英語、ドイツ語、フランス語の中から1カ国語を選択する。

(辞書(電子辞書含む)の持ち込み可。)

注) 2016年度本学音楽学部または研究生の入学試験を、音楽学専攻で受験した者は「カレッジ・ディプロマ・コース音楽学専攻試験」を書類審査で替える場合もある。

通常の出願手続締め切り後、事務局教務課入試係から本人宛に通知する。

打楽器専攻実技試験課題

a) パーカッション - (3) マリンバによる課題

♯・♭ 2つまでの3オクターブのスケールとアルペジオ。

短調は和声的音階・旋律的音階の両方とする。注：調性は当日指定する。

b) マリンバ - (2) マリンバによる課題

♯・♭ 4つまでの3オクターブのスケールとアルペジオ。

短調は和声的音階・旋律的音階の両方とする。注：調性は当日指定する。

♩ = 126

R L L R R L

R R

和声的短音階

旋律的短音階

出願書類等

※ 以下の内容は、新規受験者のためのものである。
継続手続者の出願書類等については、24ページを参照のこと。

■ 入学検定料振込方法：

- 必ず「検定料納金票」を使用し、銀行振込による。
- みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行窓口からの振込手数料は不要。
 - 納金票②票(領収証)は銀行収納印をもって、本学領収印に代える。
 - ①, ②, ③票は受験する該当番号を○で囲み、() 内に専攻名を記入する。

■ 提出書類等：

(a) ディプロマ・コース 志願票 ①	入学志願票と あ 納金票 ①(受験証)の所定の枠に 合わせて写真を貼付する。 その際、写真裏面に氏名を記入する。 ●正面上半身脱帽 ●背景のないもの ●3カ月以内に撮影したもの ●タテ4cm×ヨコ3cm
(b) あ 納金票 ①(受験証)	
(c) 卒業(または卒業見込)証明書	最終学歴のもの。桐朋学園大学・桐朋女子高等学校 音楽科の卒業生および卒業見込みの者は不要。
(d) 受験証送付用封筒	受験者本人が受け取る住所を記入し、362円分の切 手を貼付する。
(e) 出願書類送付用封筒	伴奏譜が大きくて本封筒に入らない場合は、他の封 筒を用いてもよい。ただし、伴奏譜と志願票等は 必ず一つの封筒で郵送する。
(f) 伴奏譜 (コピー可) ※「伴奏譜提出票」貼付する	伴奏を必要とする場合のみ提出。コピー譜の場合は 伴奏者が伴奏しやすいようにテープで貼る等配慮の うえ提出する。 「伴奏譜提出票」の記入について 1. 「※受付番号」欄は、何も記入しない。 2. 「区分」欄は、SD または CD と記入する。 3. 「専攻楽器」欄は、別表(20ページ)「楽器略語・ コード表」の楽器略語のみを記入する。
(g) 作曲作品	カレッジ・ディプロマ・コース作曲専攻志願者は、 試験課題 1) 作曲作品(複数でもよい)を提出する。
(h) 桐朋学園音楽部門奨学金申請書	ソリスト・ディプロマ・コース志願者で希望する者 は提出する。(25ページ参照)
(i) 学生会館入居願	希望する者は提出する。(25ページ参照)

注1) カレッジ・ディプロマ・コース志願者で実技試験を免除される者は、(a)、(b)、(d)
のみの提出でよい。

注2) (f)～(i) は該当者のみ提出。

- 郵送あて先・問い合わせ先： 〒182-8510 東京都調布市若葉町1-41-1
 桐朋学園大学音楽学部 事務局教務課入試係
 電話 03-3307-4122

出願書類記入上の諸注意

「志願票・受験曲目票」記入上の注意

1. で囲まれた項目を自筆で正確に記入する。
2. 志望コース …… 該当する番号に○をつける。
3. 楽器略語・コード …… 別表（20ページ）「楽器略語・コード表」に従って記入する。
4. 氏名 …… 戸籍名を楷書で記入する。姓と名にわけ、フリガナをふる。
5. 性別 …… 該当に○をつける。
6. 生年月日 …… 西暦で年月日を記入する。年月日の表記が1桁の場合は十の位に「0」を記入する。
7. 設置者・出身学校名等 …… 該当する番号に○をつけ、正式な学校名等を記入する。
8. 卒業・卒業見込年 …… 卒業年または卒業見込年を西暦で記入する。
9. 保証人氏名 …… 正確に記入する。〔入学を許可された場合には保証人（独立の生計を営む満25歳以上の人）を立てる必要がある。〕
10. 手続書類あて先住所等 …… 原則として保証人の住所等を記入する。手続書類等を本人宅へ送付希望の場合は、〔本人宅〕に○をつけ、その住所等を記入すること。
11. 受験期間中の居所 …… 緊急時の連絡をとれるように「○○ホテル」、「○○方」等を明記する。「手続書類あて先住所」と同じ場合は、記入しない。
12. 選考試験免除資格の有無 …… カレッジ・ディプロマ・コースで出願する場合のみ記入する。該当する番号に○をつける。
13. 修了以外に単位取得の目的 …… 履修形態に関するアンケート項目。単位取得の目的が、コース修了以外にない場合「1」なしの数字に、コース修了とは別に、留学先での単位活用等の目的がある場合「2」ありの数字に○をつける。
14. 本学研究生等との併願 …… カレッジ・ディプロマ・コース音楽学専攻で出願する場合のみ記入する。本学研究生または音楽学部と併願している場合「2」ありの数字に○をつける。
15. 入学後の実技担当希望教師名 …… 入学後の専攻実技担当教師は本学において決定するが、特に希望がある場合は、担当希望教師名を記入する。ただし、希望通りにならない場合がある。
16. 音楽歴、現在の身分・職業等 …… 音楽歴は今まで特に学習した音楽の内容等、現在の身分・職業等は現況通りに記入する。
17. 伴奏 …… 伴奏がつく楽曲の場合「1」の番号に、伴奏がつかない楽曲の場合「2」の番号に○をつける。
18. 受験曲目票
 - ーソリスト・ディプロマ・コースー
演奏曲の作曲者名、曲名、調性、楽章等を該当する課題番号の欄に記入する。
 - ーカレッジ・ディプロマ・コースー
演奏曲の作曲者名、曲名、調性、楽章等を該当する課題番号の欄に記入する。記入の際には、以下の点を注意すること。
 - ・クラリネットとサクソフォンを除く管楽器専攻の課題1)については記入する必要はない。クラリネットとサクソフォンの課題1)は、奇数番号・偶数番号の2つを1)欄に記入する。
 - ・マリンバ専攻は、課題3)自由曲のみを1)欄に記入する。

- ・ハーブ専攻は、1)欄に記入する。
- ・フラウト・トラヴェルソ、バロック・オーボエ、バロック・チェロ、チェンバロ専攻については、記入する必要はない。
- ・リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバ専攻については、1)欄に記入する。
- ・バロック・ヴァイオリン専攻の、①は課題1)欄に、②は課題2)欄に、③は課題3)欄に記入する。
- ・声楽専攻は、5曲を課題1)～5)に記入する。そのうち任意の1曲(抽選に委ねない曲)を課題1)欄に記入する。
- ・作曲専攻については、記入する必要はない。
- ・指揮専攻の3)ーア)の場合は、①を課題1)欄に、②を課題2)の欄に記入する。3)ーイ)の場合は、課題3)欄に記入する。
- ・音楽学専攻は、2)専攻外国語の受験する外国語を課題1)欄に記入する。

(別表)

楽器略語・コード表

専攻		楽器略語	コード
ピアノ		P f	0 1
弦 楽 器	ヴァイオリン	V l	1 1
	ヴィオラ	V a	1 2
	チェロ	V c	1 3
	コントラバス	C b	1 4
管 楽 器	フルート	F l	2 1
	オーボエ	O b	2 2
	クラリネット	C l	2 3
	ファゴット	F g	2 4
	サクソフォン	S x	2 5
	トランペット	T p	3 1
	テノール・トロンボーン	T T	3 2
	バス・トロンボーン	B T	3 3
	ユーフォonium	E u	3 4
	チューバ	T u	3 5
ホルン	H r	3 6	
打 楽 器	パーカッション	P c	4 1
	マリンバ	M a	4 2
ハーブ		H p	5 1
古 楽 器	リコーダー	R e	6 1
	フラウト・トラヴェルソ	F T	6 2
	バロック・オーボエ	B O	6 3
	ヴィオラ・ダ・ガンバ	V G	6 4
	チェンバロ	C e	6 5
	バロック・ヴァイオリン	B V	6 6
	バロック・チェロ	B C	6 7
声 楽	女声	V f	7 1
	男声	V m	7 2
作 曲		C o	8 1
指 揮		C d	8 2
音 楽 学		M u	9 1

カレッジ・ディプロマ・コース履修科目等

(1) 必修科目（専攻実技）

各学生の特性や能力に応じて、担当教員と相談しながら個別にカリキュラムを構成する。

[ピアノ]

	年次試験・修了試験
1年次	12月に1回〔年次試験〕。その年度に研究したものの中から20分程度のプログラムを用意する。
2年次	12月に1回〔年次試験〕。その年度に研究したものの中から20分程度のプログラムを用意する。
3年次	3月に1回〔修了試験〕。内容については別途指示する。(大学卒業試験に準じる)

[ヴァイオリン・ヴィオラ]

	年次試験・修了試験
1年次	1月に1回〔年次試験〕。ピアノとの任意のソナタの第1楽章またはそれに準じる内容の他楽章。
2年次	1月に1回〔年次試験〕。コンチェルトまたはそれに準じる作品。
3年次	1月に1回〔修了試験〕。コンチェルトまたはそれに準じる作品。

[チェロ]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として外部ホールで実施。

[コントラバス]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として外部ホールで実施。

[管楽器]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。試験課題は大学生に準じる内容。掲示で発表される。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として外部ホールで実施。自由曲。

[打楽器]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。自由曲。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。自由曲。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として実施。自由曲。

[ハーブ]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。課題については個別に指示する。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。課題については個別に指示する。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として実施。

[古楽器]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。課題については個別に指示する。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。課題については個別に指示する。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として実施。

[声 楽]

	年次試験・修了試験
1年次	1月に1回〔年次試験〕。自由曲1曲。
2年次	1月に1回〔年次試験〕。自由曲1曲。
3年次	1月に1回〔修了試験〕。課題は別途指示する。

[作 曲]

	年次試験・修了試験
1年次	1年に1曲以上、作品提出。(2月上旬)
2年次	1年に1曲以上、作品提出。(2月上旬)
3年次	修了作品提出。(2月上旬)

[指 揮]

	年次試験・修了試験
1年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。自由曲。
2年次	7月と1月の年2回〔年次試験〕。自由曲。
3年次	7月と1月の年2回、1月は〔修了試験〕として実施。課題は別途指示する。

[音楽学]

	以下の科目を必修とする。
1年次	音楽学・古楽総合演習Ⅰ， 音楽学概論， 和声法Ⅰ
2年次	音楽学・古楽総合演習Ⅱ， 音楽理論(分析)20.21， 和声法Ⅱ
3年次	音楽文献学， 音楽理論(分析)22.23， 音楽理論(応用和声Ⅰ)

(2) 専攻以外の科目

大学生向けに開講されている「専門科目」を履修する。

授業内容については、以下の本学ホームページで参照することができる。

<http://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html>

音楽学専攻は、前述「専攻科目」以外の科目を年間1科目履修すればよいものとする。

和声法Ⅰ,Ⅱ	ソルフェージュ	ドイツ歌曲演習
音楽理論(応用和声Ⅰ,Ⅱ)	キーボード・ソルフェージュ	オーケストラ
音楽理論(分析)	スコア・リーディング	副科ピアノ*
芸術音楽	ピアノ演奏法	副科弦楽器*
作曲法演習A,B,C	ピアノ実技指導法	副科管楽器*
音楽史Ⅰ,Ⅱ	ピアノ伴奏法Ⅰ～Ⅲ	副科打楽器*
音楽史概説	伴奏クラスⅠ,Ⅱ	副科ハープ*
管弦楽史Ⅰ,Ⅱ	弦合奏Ⅰ,Ⅱ	副科古楽器*
鍵盤音楽史Ⅰ～Ⅳ	管リード講座	副科声楽*
室内楽史Ⅰ,Ⅱ	管アンサンブル	副科作曲*
オペラ・オラトリオ史Ⅰ,Ⅱ	ウィンド・オーケストラ	副科指揮*
20世紀アンサンブル史	打アンサンブル	作曲理論ピアノ*
音楽史各論Ⅰ～ⅩⅧ	ハープ・アンサンブル	演奏解釈
日本の伝統音楽	ハープ・オーケストラ・スタディ	公開演奏
民族音楽	古楽実習Ⅰ～Ⅱ	伴奏
日本音楽概論	古楽アンサンブル	室内楽*
民族音楽学概論	通奏低音Ⅰ,Ⅱ	二重奏ソナタ*
和楽器実習	民族音楽実習	室内楽講座A(ピアノ)
日本歌唱	女声合唱	指揮法
楽書講読(独・仏)	男声合唱	音の物理学
コンピュータ音楽実習Ⅰ～Ⅲ	ディクシオン(日・独・仏・伊・露)	音の生理学
音楽理論概論Ⅰ,Ⅱ	声楽アンサンブル	音楽療法の理論と技法
音楽学・古楽総合演習Ⅰ,Ⅱ	オペラクラス	音楽特別活動
音楽文献学	オペレッタ・ミュージカル演習	

注1) ソルフェージュ、和声法はクラス分けのための試験を行う。

注2) 音楽理論(和声の高度な知識を必要とする)の中には、履修制限を設ける科目がある。

注3) 科目により、受講にあたって試験を課すことがある。

注4) 履修登録者数により受講制限を設けることがある。

注5) 合奏(アンサンブル)・オーケストラの受講については開講時に担当教師に確認すること。

注6) *印の科目〔副科実技、作曲理論ピアノ、室内楽・二重奏ソナタ〕は、別途受講料納入が必要となる。

(3) その他

- ・大学の各種オーディションを受験することができる。
- ・「教職課程科目」を履修する場合は、本学「科目等履修生」に同時に在籍登録をしなければならない。「科目等履修生」出願等については別に配付する「科目等履修生募集要項」(12月配付開始予定)を参照すること。また、教員免許状を取得するためには、基礎資格として「学士」の学位が必要であり、ディプロマ・コース修了のみでは教員免許状は取得できない。(詳細は教務課に問い合わせること)

在籍者の履修継続（再登録）手続について

各コースとも2年目以降の在籍を希望する者は、在籍年限内に毎年度、履修継続（再登録）の手続を必要とする。この手続を行わない者はその年度末で退籍となる。

なお、履修継続（再登録）出願を行っても、本学が履修困難と判断した場合は、在籍を認めない場合がある。

コース	在籍年限
ソリスト・ディプロマ・コース	通算7年まで
カレッジ・ディプロマ・コース	通算5年まで

履修継続（再登録）出願・手続方法

1. 履修継続（再登録）出願要領

出願資格 出願時点において、ディプロマ・コースに在籍し、在籍年限に達していない者

出願期間 2016年2月17日(水)～2月23日(火) 【郵送に限る。2月23日必着】

出願料 5,000円

必ず「検定料納金票」を使用し、銀行振込による。

(同封の⑤ 納金票を使用する)

- みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行窓口からの振込手数料は不要。
- 納金票②票(領収証)は銀行収納印をもって、本学領収印に代える。
- ①, ②, ③票は出願する該当番号を○で囲み、()内に専攻名を記入する。

提出書類等 1) ディプロマ・コース 志願票 ② (再登録用)

2) ⑤ 納金票の①票(出願証)

※ 志願票の記入方法は、19ページを参照のこと。

※ 出願手続が完了したのものには、「履修継続手続書類」を送付する。

2. 履修継続（再登録）手続要領

締切日 2016年3月14日(月) [郵送必着]

提出書類等 銀行等金融機関の収納印のある「納付金払込用紙」の副票

写真(タテ4cm×ヨコ3cm) 2枚 他

※詳細は「履修継続手続書類」送付時に通知する。

校納金 (2016年度)

受講料	前期	450,000円*
	後期	450,000円
施設設備費	前期	50,000円*
	後期	50,000円
別納受講料	選択副科(声楽以外)	80,000円〈希望者のみ。年額〉
	選択副科(声楽)	55,000円〈希望者のみ。年額〉
	室内楽・二重奏ソナタ	45,000円〈希望者のみ。年額〉
	作曲理論ピアノ	160,000円〈希望者のみ。年額〉

注1) *印のついた校納金〔500,000円〕を継続手続時に納める。

注2) 経済情勢の変動等に応じて2017年度以降の校納金については改定があり得る。

特待生制度・奨学金制度および学生会館

特待生制度

ソリスト・ディプロマ・コース生で、入学試験または所定の学内試験における専攻実技の成績が極めて優秀であると認められた者は、「特待生」として登録料・受講料などを一部または全額免除する。

奨学金制度

成績優秀者または経済的な理由により就学が困難なソリスト・ディプロマ・コース生を対象に、各種の奨学金制度がある。

1. 本学独自の奨学金制度〔給付〕

◎ 桐朋学園音楽部門奨学金

成績が良好で心身ともに健全であり、主として経済的理由で就学が困難な学生を対象とする。1年ごとに選考を行い、授業料の1割から10割を年1回（9月末）給付する。原則として、日本学生支援機構奨学金(第一種)の算出基準に準拠、実状を考慮し決定する。

申請方法：入学前と入学後の申請がある。

① 入学前の申請

入試要項添付の申請書に必要事項を記入、書類を添付のうえ

入学試験志願票とともに提出する。

給付の可否についての審査結果は、「入学試験」合格通知と同時期に別便(予定)で郵送する。

採用者には、入学後、奨学金運営委員会による面接が7月中旬に実施される。

② 入学後の申請

在学生を対象とする募集要項は、4月末に掲示する。入学前に申請した者も、再度申請することができる。

注)再登録者は在学申請のみとなり、申込みは②と同時期に行う。

◎ 桐朋学園音楽部門特別奨学金

成績の特に秀でた学生に対し年度末に給付される。

2. その他

◎ 国の教育ローン(日本政策金融公庫が取り扱う公的な融資制度)

<http://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

学生会館

自宅通学が困難な女子学生・生徒のために、調布駅より徒歩約15分の場所に学生会館を用意しています。

タイプ：防音ワンルーム型マンション

住戸面積：約21㎡(1住戸当り)

仕様：ミニキッチン・バス・トイレ・エアコン・インターネットコネクション等各室完備

住戸数：115戸

入居費：月額78,000円

その他：入居時に諸経費として50,000円が必要。光熱水費は自己負担。

2016年度の募集について

(1) 募集人数は約20名。希望者多数の場合は抽選とする。(高校生、大学生を含む)

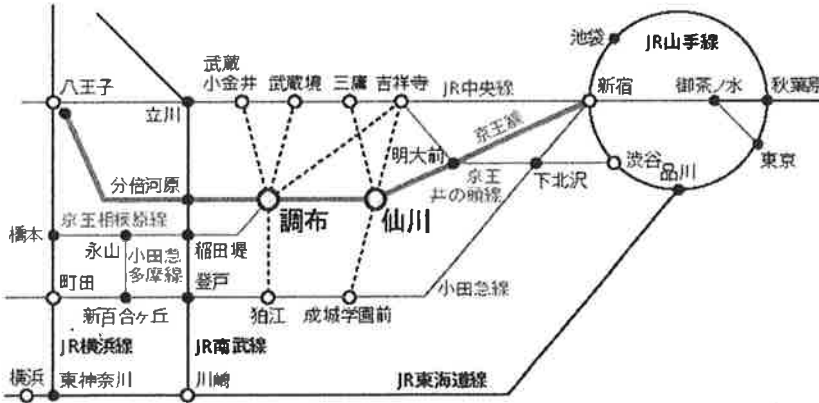
(2) 入居希望者は入試要項に添付されている所定用紙にて入学試験志願票とともに提出する。

(3) 入居の可否通知は「入学試験」合格発表日の翌日(予定)に、合格者宛に発送する。

交通機関案内図

■ 交通案内

<調布駅-新宿駅より特急で約16分、仙川駅-新宿駅より快速で約18分>



京王線以外からのルート

<調布キャンパス>

- 小田急線「狛江」駅発 (バスの所要時間約20分)
小田急バス「調布駅南口」または「武蔵境駅南口」行き
「調布駅南口」または「調布駅北口」バス停下車 徒歩10~12分
- JR中央線「吉祥寺」駅、「三鷹」駅、「武蔵境」駅、
「武蔵小金井」駅発
(バスの所要時間約30~40分)
小田急バス「調布駅北口」行き (吉祥寺、三鷹、武蔵境)
京王バス「調布駅北口」行き (武蔵小金井)
「調布駅北口」バス停下車 徒歩10分

<仙川キャンパス>

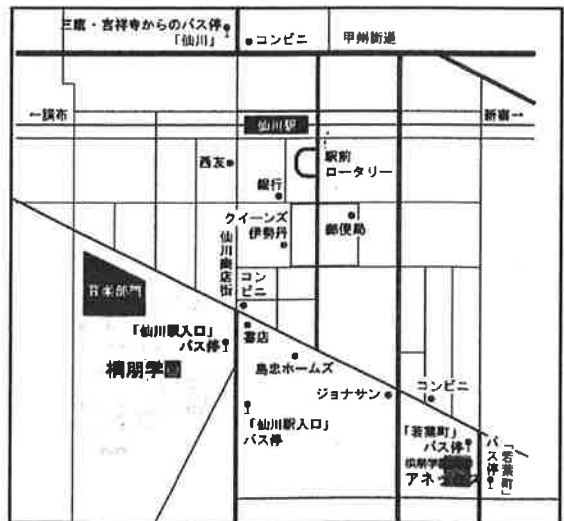
- 小田急線「成城学園前」駅発 (バスの所要時間約15分)
小田急バス「狛江営業所」または「調布駅南口」行き
「仙川駅入口」バス停下車 徒歩1分
- JR中央線「吉祥寺」駅発 (バスの所要時間約25分)
小田急バス「仙川」行き「仙川」バス停下車 徒歩6分
- JR中央線「三鷹」駅発 (バスの所要時間約30分)
小田急バス「仙川」行き「仙川」バス停下車 徒歩6分

◆ 調布キャンパスの駅からのアクセス



- 京王線「調布」駅より 徒歩10分

◆ 仙川キャンパスの駅からのアクセス



- 京王線「仙川」駅より 徒歩5分